No.21
2002.10

ごみを減らそう!!

使いやすいサイズの京都市推奨事業系ごみ袋が登場！

この４月に登場した45リットル入りのごみ袋に引き続き、さらに大容量の70リットルと90リットルが加わり、事業所のごみの量に合わせて事業系ごみ袋が使い分けできるようになりました。

詳しくは、特集ページをご覧ください。（P2・P4）

index

◆特　集
もっと、事業系推奨袋を！

◆座談会
今後の廃棄物処理の方向性について

◆NEWS
ごみ減量実践講座、9月から開始

◆行政からのお知らせ
プラスチック製容器包装モデル収集を拡大実施

◆レポート
初詣の割箸回収

◆会員探訪
環境カウンセラーズ京都、株式会社 堀場製作所

◆新シリーズ
「やってます。わたしの住む町で、ごみ減らし」

京都市ごみ減量推進会議

特集

もっと、事業系推奨袋を！

事業所から排出されるごみの中で、法律で定められた20種類の産業廃棄物以外の廃棄物、つまりオフィスの紙ごみや食堂の生ごみなどは事業系一般廃棄物と呼ばれている。処理に関しては、自家処理と市町村への協力義務が規定されている（廃棄物処理法第６条二の４）。

京都市の事業系一般廃棄物の収集量は、47万3485トン/年（平成12年度実績）。約３万の事業所が廃棄物収集を委託し、87の許可業者（一部、限定許可）に収集運搬を委託している。この他、直接クリーンセンターに持ち込まれるケースもある。

70リットルのごみ袋を手にする小坂さん

事業系のごみ削減につながるごみ袋

事業系一般廃棄物として処理されている物の中には、資源となる紙、缶、ペットはもちろん、処理が困難な異物が混入することがあるという。「リサイクルへの意識が浸透していない。きちんと分別すればごみとしての排出も処理量も少なくなる」と、事業系一般廃棄物の許可業者である小坂正浩さん。

京都市は、平成11年6月「新京都市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」～京（みやこ）・めぐるプラン～を策定、環境共生型都市をめざし、ごみ削減の具体的な目標数値を掲げている。事業系のごみに関しては、２０１０年度（平成22年度）に処理するごみ量を１９９７年（平成９年度）のレベルから20％程度削減するとしている。

削減のためには、３Ｒ（リデュース＝ごみの発生抑制、リユース＝再使用、リサイクル＝再資源化）をどこまで進めるかが鍵になる。

事業系一般廃棄物を推奨袋で排出するのは、その目標に近づくための第一ステップ。資源の混入をなくし、ごみの発生抑制においても、きちんと再資源化する上でも有効な手段だ。すでに指定袋を製造し有料化している自治体もある。

45リットルを見直し さらに大きく

京都市ごみ減量推進会議では以前から事業系ごみ袋の話が持ち上がっていた。それを実現しようと00年８月に事業系推奨袋ワーキンググループを立ち上げ、01年10月、事業者にアンケートを実施。事業系ごみ袋のニーズがあると見込み、企画をスタート、02年４月まずは45リットルごみ袋を京都市の推奨として、販売を開始した。

しかし、導入が進まず、現在約１２０事業所にとどまっている。事業系ごみ袋を生産している、京都清掃業協同組合では、45リットル入りの袋がニーズに対応していないのでは、と見直しを図り、この10月より70リットル、90リットルを新たに追加作成することとなった。京都清掃業協同組合の宮崎睦雄さんは「できる限り価格には配慮した」と、浸透への意欲をみせる。

「今までのごみ袋より安く丈夫だ」という声も

45リットルの事業系ごみ袋をいち早く導入した、古川町商店街の松本明光さんは「今まで使っていたブルーのごみ袋より安いし丈夫だ。破れたことがない」と、

価格にも品質にも満足気だ。京都市に協力しているという誇りもあるという。

松本さんの店では、1日約2袋程度排出。許可業者に毎晩回収してもらっている。年間で500枚くらい使用する。同じ商店街では、4～5店舗が採用しているという。ペットボトル・缶・びんは資源ごみ用の推奨透明袋に入れて出している。

「安くて、丈夫」という松本さん

異物混入の防止効果に期待し積極的に導入した企業

環境への取り組みに積極的で、推奨袋の導入も早かったと聞き、富士電機産業(株)京都営業所(京都市南区)を訪ねた。01年9月ISO14001の認証を取得した同社では、収集業者に勧められ、すぐに推奨袋に切り替えた。以前は黒色の低価格のごみ袋を使っていた。「中が見えるので資源が混ざることが少なくなった」と、榊原勝雄さん。

70リットルを使っていたが、協力を惜しまず45リットルの推奨袋に切り替えた。紙は可能な限りリサイクルに回しているので、シュレッダーにかけた後の書類やティッシュなどの紙ごみと茶やタバコなどの生ごみが一般廃棄物となる。社員18名だが、毎月、生ごみ10キログラム、紙ごみ73キログラム程度を収集に回す。

いち早く導入した富士電気産業(株)

指定袋を導入している名古屋市では

指定袋を導入し、事業系一般廃棄物を集めている名古屋市の事例を見てみよう。収集については、市に直営収集を依頼する場合と許可業者に収集・運搬を委託する場合の2つの方法があり、袋もそれぞれ異なる。

市が直営収集する場合は、可燃用(半透明ピンク)と不燃用(透明ピンク)に分けられ、(いずれも45リットルと10リットル)そこに有料シールを貼る。

許可業者に収集・運搬を委託する場合の袋も可燃用(半透明レモンイエロー)と不燃用(透明イエロー)に分けられている。

00年2月「ごみ非常事態宣言」を掲げた名古屋市では、2年間で20%、20万トンのごみ減量を呼びかけ、事業所に対し古紙、空きびん、空き缶の搬入禁止、産業廃棄物の全面受け入れ中止、ごみ処理手数料の全量有料化を進めてきた。2年後には、目標数値を上回るほどに削減され、一般廃棄物処理基本計画の見直しが進められている。

循環型社会にふさわしいごみ袋に期待したい

事業所のごみ収集量に対応するより容量の大きな70リットル、90リットルの袋の普及という段階を経て、循環型社会にふさわしいごみ袋の製造と収集システムの構築に期待しよう。

「循環型社会の構築への配慮をするなら価格よりも再生素材を採用し、循環の手本になる袋を」。ごみ袋についての著作を持つ猪上泰義さんの助言を最後に付記しておこう。

京都市推奨事業系ごみ袋

45リットル	(1箱500枚入り) 0.03ミリ	@ 8 円	4000円
70リットル	(1箱400枚入り) 0.04ミリ	@13.25円	5300円
90リットル	(1箱300枚入り) 0.05ミリ	@21.60円	6500円

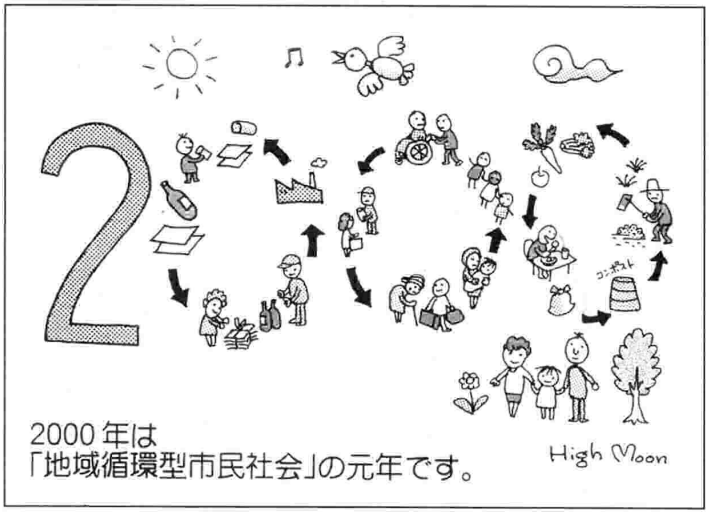
すべて低密度ポリエチレン・乳白色・めぐるくんマーク付き推奨袋は、代金引換で発送してくれる。

事業系推奨袋のお申し込みは、京都清掃業協同組合へ。
専用用紙もお使いください、

TEL.075-691-5516　FAX.075-662-0775

「環境まちづくり交流会・ごみ分科会」講演より

今後の廃棄物処理の方向性について



京都大学環境保全センター　高月　紘
（京都市ごみ減量推進会議会長）

◆循環型社会では、ごみは資源

日本の目指すべき社会像をここでは「農業、生活、商工が共生する持続的循環型共生社会」、すなわち、「比較的小規模な地域社会の中で、農を中心とした生態系との調和を重視し、できるだけ全体として環境負荷の少ない人間活動が行われる社会」、そして「循環を基調とした最適生産、最適消費、最小廃棄型の経済社会」と位置づけたい。

さて、このような社会像を望ましい社会像とした場合、その中での廃棄物処理のあり方はどうなるであろうか。

まずは、循環型社会となると、廃棄物自体の定義から問題となる。ドイツの「循環経済・廃棄物法」ではないが、循環型社会では廃棄物は資源でもあるので、循環（処理）過程での有償無償の議論よりはむしろ、循環過程での環境負荷の大小が問題となろう。

◆地域内循環できる社会システムと環境負荷の低減が大切

その意味では、循環過程で環境負荷の大きい、たとえば有害化学物質を含む廃棄物などは、循環過程に、できるだけ入らないような管理が必要である。

また、循環過程で廃棄物の回収や運搬に多量のエネルギーを消費するのも避けるべきであり、その点で可能な限り、小区域の地域内循環できる社会システムが望ましい。

さらに、製品自体が少量の資源とエネルギーで生産され、かつ長持ちすれば、それだけ社会全体での環境負荷は小さくなる。

このように、資源→製品→廃棄物→資源といえる一連の循環の中で環境負荷の低減を考えることは、いわゆるＬＣＡ（ライフサイクルアセスメント）に相当する。

そして、それが環境効率性の高い経済社会システムの実現につながることになる。いずれにせよ、社会システム全体の環境負荷を低減することが持続可能な社会の重要なコンセプトである。

◆事業者が環境効率を考慮する仕組み、ＥＰＲに期待

これまでの社会システムの中で廃棄物処理の面でどこが問題であったかと言えば、やはり設計・生産段階での製品や社会システム全体への環境配慮が充分でなかったことが挙げられよう。

これはこれまでの廃棄物に関する社会システムが公衆衛生面からごみ処理コストを自治体が負担する体制であったために、コストを重視する事業者が、環境負荷低減コストを自治体に負わせる方向へ動いたのは当然であり、その意味では、もはや現在ではこの社会システム自体が廃棄物の変化に対応できていないとも言える。

そこで、現在ヨーロッパを中心に進みつつある、ＥＰＲ（拡大生産者責任）の流れは、事業者が環境効率を考える仕組みとして大いに期待されるのである。

ＥＰＲは、製造者が消費後の製品についても責任を持つという考え方で、当然製品のライフサイクルに関連する環境的コストを製品の市場価格に組み込むこと（外部費用の内部化）を推進することになる。その結果、生産者は総コスト削減の観点から、「製品のリサイクル、適正処理を考慮した製品設計、技術体系」の導入を進め、生産工程におけるリサイクル材料利用の増大、環境配慮型商品の普及などによって、廃棄物最小化の促進が期待される。

◆市民と事業者とのパートナーシップが基本

持続的な循環型共生社会では、廃棄物の排出抑制が最優先されるべき目標であるので、そのためには廃棄物の発生に関わる事業者と市民のパートナーシップが欠かせない。

特に事業者側の社会的責任としての生産段階から廃棄、循環に至るプロセスでの環境負荷低減への努力が重要である。また、市民も行政任せの廃棄物対策から脱却し、自発的に廃棄物削減へ取り組む必要がある。

循環型共生社会では、主役は自立した創造的市民が担うべきであり、行政はあくまでもその支援的役割にとどまるべきである。ただ、現状の行政依存型の廃棄物処理体制から一気に市民、事業者、行政の共生型システムに変革することは難しい。環境教育を含めて時間をかけて、自立した創造的市民の育成と市民参加による行政システムの提案を図る必要がある。そして、その前提となるのが情報公開の定着であり、ソフトによる廃棄物対策に対する評価方法の確立であろう。

◆マテリアルリサイクルを第一優先にすべき

容器包装リサイクル法が成立した時点でのリサイクルの優先順位は、第一にマテリアル、第二にケミカル、第三にサーマルになっていたはずであるが、現状では第三のサーマルリサイクルが優勢である。この流れは多分にコスト面が影響していると思われる。

確かに種々の材質が混入し、汚物も付着したその他プラスチックをマテリアルリサイクルすることは、コスト面、エネルギー面から見て、かなり無理があることは事実である。

そもそも、マテリアルリサイクルを第一義的に考えたのは、製造者側にリサイクルしやすい製品づくりを促す目的があったものと思われる。ところが、それを避け、安易なサーマルリサイクルで良しとしたのでは、製造者側に何ら設計変更へのインセンティブが働かない。ここはあえてマテリアルリサイクルの優先度を第一に戻すべきではなかろうか。これはＥＰＲの視点からしても正しい方向性だと思われる。

◆リサイクルより、リデュース、リユースを

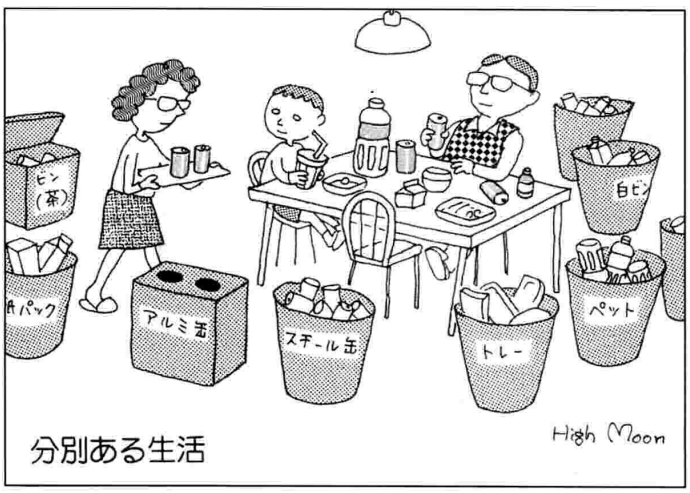
そして、もっと重要なことは、廃棄物対策の優先順位の(1)Reduce(リデュース)、(2) Reuse(リユース)、(3) Recycle(リサイクル)、の観点からすると、リサイクル施設に補助金を打つより、リデュースやリユースの社会システムに補助金の手当をすべきであると考える。

わが国の廃棄物処理は、基本的には、社会システムの環境負荷を減らすことが第一義的であるとすれば、単に廃棄物処理の段階だけで環境負荷を論じるのではなく、生産や消費の段階を含めた全体としての環境負荷を考慮すべきなのである。

廃プラスチックの対策は、リサイクルもさることながら、使い捨てタイプのプラスチック製品をいかに減らすかが重要なのである。

より具体的に言えば、プラスチックレジ袋の削減（レジ袋の有料化）、通い箱制度の導入、包装材の変更（プラスチックから紙製へ）、デポジット制の導入（リユースびんへのサポート）など種々の工夫をしてプラスチック消費量の削減への努力が必要である。

（6月29日（土）開催された「環境まちづくり交流会２００２」ごみ分科会～京都市のごみ減量ビジョンを考えよう、容器包装ごみリサイクル全面実施にむけて～での講演レジュメより要約しました。）



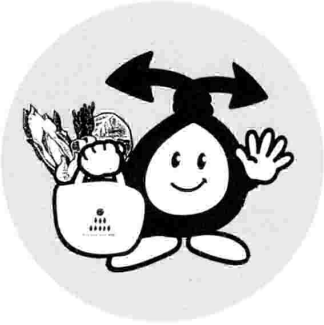
分別ある生活

「地球を守り、ごみを減らすために買い物はマイバッグで！」2カ所で街頭啓発

京都市で家庭ごみの約9％を占めるレジ袋。最終的には焼却処理され、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を発生させている。マイバッグ持参での買い物をすれば、レジ袋は削減できるわけだが・・。

京都市ごみ減量推進会議では、10月18日（金）午後4時から1時間ジェイアール西日本　伊勢丹の店頭で「地球を守り、ごみを減らすために買い物はマイバッグで！」と、呼びかけた。中田富士男全市キャンペーン実行委員長、山内寛めぐるくん推進友の会会長、西川富久子地域女性連合会常任委員、中島理事、小峰理事、今西理事、原監事ら31名が参加して、買い物袋の配布、レジ袋削減のチラシなどを手渡し、道行く人に呼びかけた。

このキャンペーンは、10月26日（土）午前11時～午後3時「上京ふれあいまつり」（於：新町小学校講堂内）にても実施。



こどもたちも笑顔を浮かべてマンガで楽しくごみのこと

去る7月27日（土）、京（みやこ）エコロジーセンターにて、第2回こどもワークショップ「マンガをかいてごみをへらそう」が開催された。参加した24名のこどもたちは4チームに分かれ、午前中は、エコロジーセンターの見学など、午後は環境漫画家ハイ・ムーン先生のマンガについてのお話の後、それぞれテーマに沿い、JEE（日本環境保護国際交流会）や京都大学ゴミ部のメンバーがリーダーとなり、大きな紙にマンガを描いた。

なお、こどもたちのマンガは、当日より9月はじめまで、京（みやこ）エコロジーセンター1階の壁面に展示された。

ブタグループのマンガ「わるい人のゴミ対決。いつもはいえなかったけれど」

花グループは、「ぼくたちにやる気があればごみはへる」をテーマに

とりグループは「どっちがいい」をテーマにして、いいパターンとわるいパターンを描いた。

木グループは、「地球をまもるためにできること」をテーマに、

エコロジーはエコノミー2002 ごみ減量実践講座、9月から開始

京都商工会議所との共催で、00年から開いているごみ減量実践講座が今期も新たなプログラムでスタート。03年2月まで毎月1回全5回開かれる。去る9月19日(木)「京都市はグリーン調達をこう進めています」をテーマに第1回の講座が開かれた。

講師の宇高史昭氏（京都市環境局環境企画部地球環境政策課地球温暖化対策係長）と若林佳弘氏（京都市環境局環境保全部環境管理課環境管理係長）から、グリーン調達の背景や、京都市の事例などを学んだ。講義の後、質問や意見が続出し、廃棄物問題への意識の高さが伺えた。

第2回からは以下の日程で開かれる。

◆第2回　自動車メーカーの生産における省エネとリサイクル活動～HONDAの事例に学ぶ～　11月14日（木）

◆第3回　ごみを宝に。エコビジネスへの挑戦　12月12日（木）

◆第4回　オフィスの紙ごみ、手を組んでリサイクル　1月16日（木）

◆第5回　リコーの環境会計およびごみ対策に学ぶ　2月13日（木）

いずれも午後1時30分～4時、京都商工会議所2階教室にて。詳しくは、事務局へ。

京（みやこ）エコロジーセンター プロジェクトチーム発足

この6月開設された京都市環境学習施設「京エコロジーセンター」では、市民参加による事業運営という基本姿勢を組織に反映させ、事業運営委員会を設けている。京都市ごみ減量推進会議からは、中島和子理事、山内寛理事の両氏が委員として参画されている。京都市ごみ減量推進会議のメッセンジャーでもある中島、山内両氏に考えや意向を託し、エコロジーセンターとの関わりやごみ減としての活用を活発にする目的から、「京（みやこ）エコロジーセンター・プロジェクトチーム」を発足させた。

去る8月8日、中島、山内両氏を交え、第1回目の会議が開かれ、エコロジーセンターにおける京都市ごみ減量推進会議について、京（みやこ）のアジェンダ21フォーラムとの連携についてなどの意見交換が行われた。

プロジェクトチームのメンバーは、遠藤明子さん、細木京子さん、山本巳根子さん（全市キャンペーン実行委員会）、森田知都子さん、山本忠史さん（広報活動実行委員会）、城戸正親さん（地域ごみ減量推進会議）、高橋かつ子さん（めぐるくん推進友の会）。

「環境を考えるリサイクルバザー」にめぐるくん推進友の会が出店

服、おもちゃ、食器などの様々な家庭内の不用品が所狭しと並べられ「買ってー買ってー」とかけ声が、飛び交う・・。出店は160、来場は赤ちゃんから老人まで7000人。

10月6日（日）醍醐グランドームにて開かれた「第9回環境を考えるリサイクルバザー」（主催：京都山階ライオンズクラブ）に、京都市ごみ減量推進会議の会員であるめぐるくん推進友の会が出店した。

「当初は『リサイクル』が目的だった、時代とともに『減量』が目的に変化してきた」とめぐるくん推進友の会会長の山内寛氏は言う。

めぐるくん推進友の会・ごみ減量啓発コーナーでは、アンケートも行なわれ、約400もの回答が寄せられた。環境にやさしい草　ェ　ックが11項目、マイバックへの質問も　られていた。

家では不用品でもバザーでは、商品として生まれ変わる。会話のやり取りもあり、環境だけでなく心にも懐にもやさしい買物術を売る人も買う人も楽しんでいた。

京（みやこ）エコロジーセンターで使用済み天ぷら油を回収

環境学習の新拠点エコロジーセンターの玄関横に使用済み天ぷら油回収ボックスが設置されたのは、6月21日。エコロジーセンターに出入りするボランティアや催しの折りに地元の人が持参するなどして利用されている。20リットル入りの回収ボックスを3つ設置したが、すでに2つが満杯に。

近隣のマンション等に啓発チラシを配布するなどした、管理担当の南志津子さんは「地域の拠点として根付きつつある」と見る。このボックスは、常時据え置かれているので、エコロジーセンター開館時間内であればいつでも利用できる。

京（みやこ）エコロジーセンター玄関南側に立てられた旗が目印

廃棄物学会研究発表会に市民展示で参加

11月28日・29日国際会館で

ごみに関わる学者、企業、市民など、多くの会員を擁する廃棄物学会が毎秋各都市で開催する研究発表会。今秋は京都市で開かれる。会場は国立京都国際会館（左京区宝ヶ池）。全国から約3000人の参加が見込まれるこの催しの一角に、ごみに関わる京都の市民団体の活動を紹介する運びとなった。

京都府生活学校連絡協議会、めぐるくん推進友の会、日本環境保護国際交流会、環境市民、ユニバーサルユース研究会、レイチェル・カーソン日本協会など10団体がメインラウンジでパネル展示などを行う。また、開催日2日目の11月29日（金）には「地球温暖化防止と循環型社会」のテーマでシンポジウムが開かれる。（同日午後4時～6時、国際会館メインホール）

プラスチック製容器包装モデル収集を拡大実施

平成14年10月9日より約1万4千世帯で。

平成12年4月、容器包装リサイクル法が完全実施され、同法に基づき、プラスチック製容器包装廃棄物のリサイクルに取り組む自治体が増加しています。しかし、分別の対象が容器包装プラスチックに限られているため、分別すること自体が難しいことや、プラスチックとしての種類が多様であり、リサイクルの手法が限られているなど、プラスチックリサイクルはまだまだ多くの課題があるのが実状です。

家庭ごみ中におけるプラスチック製廃棄物の量は、全体の約15%（平成12年度京都市調査、物理的組成の湿重量比）であり、年間約4万8千トンが排出されています。このうち、代表的なプラスチック製容器包装廃棄物であるペットボトルは、平成9年10月から分別収集を行い、年間1,642トン（13年度実績）がリサイクルされています。

京都市では、その他のプラスチック製容器包装廃棄物に対するリサイクルを進めるため、平成11年10月から左京区、伏見区の約1,000世帯（13年2月に約2,000世帯に拡大）の協力を得てモデル収集を開始、最善のリサイクル手法をさぐるため、これまで分別協力率等各種調査を重ねてきました。

今回、平成19年度を目標としている分別収集の全市拡大に向け、10月9日からモデル収集地域を全行政区の約1万4千世帯に拡大し、地域の特徴を把握するとともに、分別意識の高揚を図っていくこととしています。

◆収集するもの

プラスチック製容器包装

●食料品や日用品のボトル
食料品の模様の付いたトレイ、有色トレイ、日用品のパック等、容器、食料品のカップ・パック、食料品や日用品の袋、発泡スチロール製緩衝材

◆収集しないもの

1）プラスチックではないもの

●材質がプラスチックではないもの
包装紙、紙袋、牛乳パック類など
●容器包装に定義されないもの…
だんごの串、野菜の結束テープ、ひも、ステッカー、ビデオケース、CDなど中身の商品と一体となっているもの
●商品そのもの…
おもちゃ、ボールペンなどの文具、ハンガー、歯ブラシ、洗面器など弁当箱、密閉容器、携帯ポーチなど
●商品の付属品…
ストロー、割り箸、お手拭きなど
●サービスに伴う容器包装…
クリーニングの袋、ダイレクトメールの封筒など

2）プラスチック製容器包装の区分で収集しないもの

●飲料、しょう油のペットボトルおよび空き缶・びん→缶・びん・ペットボトル収集へ
●マヨネーズ、ケチャップ、わさびなどのチューブ（洗いにくいもの）→家庭ごみへ
●小さな容器・紙袋→家庭ごみへ
●ラップ→家庭ごみへ
●白色トレイ→店頭回収へ
●食べ残した食料品が入った袋→家庭ごみへ
●口紅などスティック容器→家庭ごみへ

◆プラスチック製容器包装の出し方のルール

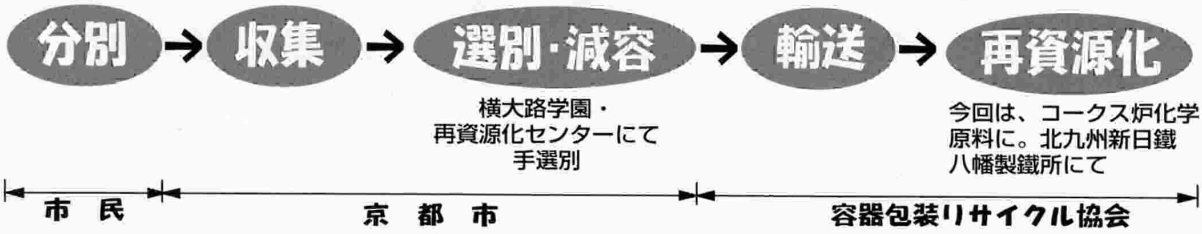
○汚れは洗って出す
○吸い殻などの異物は入れない
○プラスチック以外の素材ははずす

プラスチック容器包装は、このマークが目印です。

このマークの下に、プラスチックの材質（PP、PEなど）の略号が表示されているものもあります。
※まだ付けられていないものもありますが、平成15年4月からすべてのプラスチック製容器包装に付けられる予定です。

モデル対象地区
北区元町学区、上京区御所南学区、左京区聖護院・川東学区ほか16地区1万4000世帯

◆回収からリサイクルまでの流れ



千里リサイクルプラザ研究所　研究員 板東淳子

平安神宮と伏見稲荷 初詣の割箸回収

ー18.5キログラム、4625膳はがき1542枚分集まったー

ショッキングな平安神宮の初詣

1998年1月2日、私は、平安神宮裏に住む従兄の家に遊びに行こうと娘と二人、茨木市の自宅から着物を着て出かけ、大鳥居をくぐりました。そのとたん、ここはどこ？今はいつ？私は誰？状態に陥りました。

あまりのごみの惨状に呆然としてしまったのです。海外からのお客様も多い京都がこんなでいいの？これはどうにかしなければと、その後、思い続けることとなりました。

山のような初詣のごみの調査

1999年1月1日、そして3日、まず、私はデジカメを持って惨状を写しに行きました。平安神宮の露店は、座って食べるところを設けたお店は少ないため、低めの石垣などに座り、そこに放置したまま去って行くことが分りました。ベニヤ板の大きなごみ箱が6ヶ所程設置されている近くでは、立ったまま食べ、ごみ箱に入れていました。集積場は広いため、ごみは散乱していました。

多くの参拝者が集る伏見稲荷にも行ってみました。伏見稲荷は、ほとんどの店が座る所を設け、放置ごみは少なく、清潔な感じがしました。集積場はダンボール、トロ箱が高く積みあげられていました。

せめて割箸を回収しよう

翌年、2000年は、どうしたらよいか分らないまま悶々と過ぎて行きましたが、その間11月4日に私が所属している財団法人千里リサイクルプラザ研究所 市民研究員は、『くるくるフォーラム2000』を開催しました。その中に、ガールスカウト大阪31団が割箸の回収をして王子製紙に送っているという発表があり、初詣も割箸回収ならできるのではないかと思うようになりました。

放置ごみの惨状　1999。

箱を置けば入れて下さる。

上に置くと割箸だけが入る。

たくさんの箱を用意して下さった。

2001年11月末.まず平安神宮、伏見稲荷に電話を入れました。伏見稲荷は露天商組合の会長さんの連絡先を教えて下さいました。会長さんは「ごみは毎年パッカー車6台を頼んでいますよ。責任持って回収してくれるならして下さい。31日に露店が立つので、各お店に個別に交渉して下さい。」とのこと。

大晦日、以前から分別していたうどん屋さんを初め、広島焼、おでん屋さんなど5店舗に割箸回収箱と書いた紙を2枚渡し、1月3日には15キログラム、3750膳を回収しました。

平安神宮の方は、参道が神宮の管轄ではないので、1月2日にベニヤ板のごみ箱の上に回収箱を乗せ、ごみ箱の中のも拾い、2時間で3.5キログラム、875膳を回収しました。

イベントのごみゼロをご一緒に

平安神宮などでごみ箱に手を入れて割箸を回収するうち、透明なケースとトレーをきちんと重ねれば大きなごみ箱や広い集積所は不要と思うようになりました。

2003年はぜひ、これらのものも回収し洗ってリサイクルするか、さくらまつりで使用されたエコトレーを使用するなど「イベントのごみゼロ」を京都の方たちと一緒に取組みたいと思いますので、下記へご連絡下さい。

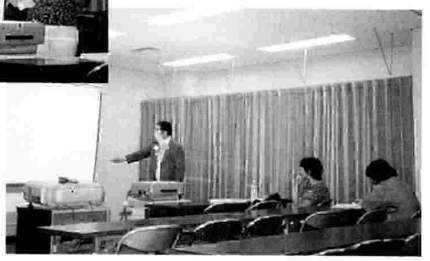
〒567-0047
茨木市美穂ヶ丘19-C-406
坂東淳子　TEL.0726-26-4992（自宅）
TEL.06-6396-6111
（千里リサイクルプラザ研究所）

Series

会員探訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多彩な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回も2団体の活動を取材しました。

取材：浅利美鈴（京都大学環境保全センター　大学院生）



9月12日環境セミナーの様子～「シックハウスの現状とその取組」、「子供達と考える環境教育」の2講演。環境カウンセラーズ京都の登録会員が講師。

環境カウンセラーズ京都

Q 「環境カウンセラーズ京都」とは？

A 「環境カウンセラー」とは、市民活動や事業活動の中での環境保全に関する取り組みについて豊富な実績や経験を有し、環境保全に取り組む市民団体や事業者等に対してきめ細かな助言を行うことのできる人材。環境省は、平成8年度より、その登録制度を実施しているのです。「環境カウンセラーズ京都（以下、当会）」は、京都府内在住もしくは京都府内勤務「環境カウンセラー」の有志が集まって構成されています。

Q 4つの活動とは？

A 現在、事業者部門と市民部門、併せて30名の環境カウンセラーが当会に所属しています。それぞれ、様々な経験や知識、資格を持っていますので、それぞれの特性や個性を活かした活動ができるように、4つの分科会に分かれて活動しています。

①研修会やセミナーの開催…登録会員が講師となり、様々なテーマで開催しています。今回の「環境セミナー」は、「シックハウス」と「こどもエコクラブ」の2つがテーマ。このように、まったく違う分野の話を同時に、そして本格的に聞けるのも、個性豊かな当会ならではの醍醐味。9月20日から今年度末までは、連続5回に渡って「省エネセミナー」を開催する予定です。多くの方の参加をお待ちしております。また、「エコツアー」も実施しており、こちらもなかなか好評です。

②情報の受信・発信…さきほども述べた通り、それぞれ様々な分野から来ていますので、会員相互やその所属している団体との情報交換の場としても重要なのです。

③情報誌の発行、HPによるPR…情報誌は、不定期ですが、年に3回程度発行しています。また、とうとうHPが立ち上がり、一般の方にも、より情報発信がしやすくなりました。ただ、中身はこれからです。

④市民活動への参画指導…会員の経験が活かされる活動の一つです。例えば、KES・環境マネジメントシステム・スタンダードの認証制度。これは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得が困難な中小企業でも、環境保全活動に取り組めるよう工夫した京都独自の企画。京都市や市民組織「京のアジェンダ21フォーラム」により、2001年4月にKES認証事業部が設置されました。当会の中にISO14001認証取得を経験した人や、その審査に関する資格を修得する人もいますので、多数の会員がKESに参画しているのです。

Q 「ごみ」に関する活動は？

A 当会は、循環型社会の構築にはごみの発生抑制が最重要課題であると考え、その解決策の一つとしてワンウェイびんの使用を減らし、繰り返し使える統一規格リユースびん普及のための調査・研究を行ってきました。これは、お気づきの方もおられると思いますが、京都市ごみ減量推進会議の活動の一環です。回収→洗びん→中身の充填→小売店→消費者の循環を、①容易に、②より少ないエネルギー消費と環境負荷で、③自治体回収による社会的費用を使わず、④経済的に成り立つシステムとして、関西圏に再構築することを目標に、当事者間の合意を取り付けながら活動を行っています。

統一規格リユースびん

Q 今後の展開は？

A 平成15年度には「世界水フォーラム」が開催されます。そのプレセレモニーとして京都府主催の「エコ・ワークショップ」に参画します。新課題「水を中心にした省エネルギーを考える」に挑戦します。このような新たな挑戦も加えながら、これまでの活動の充実を図り、同時に、より多くの市民の方々に認知してもらい、活動の輪を広げていきたいと思います。

取材に応じて下さった事務局川端一彌さん

環境カウンセラーズ京都

事務局：〒606-8324
京都市左京区聖護院中町5　川端一彌
TEL&FAX：075-752-9191
URT Home Page
http://www5e.biblobe.ne.jp/~kan-kyo/
設立：1998年
会長：内藤勝巳
会員：30名
活動内容（分科会）：1)研修会やセミナーの開催、2)情報の受信・発信、3)情報誌の発行、HPによるPR、4)市民活動への参画・指導

京エコロジーセンターへの出展（ハンディタイプの酸性雨測定器もホリバ製）

本社ビル

取材に応じて下さった環境管理室室長　川戸健一さん（右）
総務部施設担当　岡本和博さん（左）

株式会社 堀場製作所

Q 実は、環境保全に深く関わるお仕事なのですね？

A ホリバは創業以来、計測という技術をベースに、エンジン計測、大気や水質の計測、人々の健康維持に貢献する医用計測、また半導体分野における検査機器へとその事業を拡大してまいりました。このように私たちは、環境問題を中心とした計測技術を基盤とする製品を社会に提供しており、自らの技術で環境や健康の分野での様々な問題解決に直接的に貢献していきたいと考えております。

Q 全世界に拠点があるそうですね？

A アジア、ヨーロッパ、南北アメリカと、海外に30拠点、日本には8拠点を置いています。ここ京都本社はその核です。各拠点には、その地域固有の環境対策・計測を求める声や要望も寄せられます。世界各国の地球環境保全への取組みに呼応し、最先端の分析・計測技術をいちはやく開発、提供していくことは、「環境計測技術のホリバ」の大きな使命です。当然、技術面での貢献も重ねてきましたが製品開発での環境への配慮も重要課題と認識しています。

Q 「環境適合設計」とは？

A 当社は来るべき循環型社会に向けて、従来の省エネや省資源中心の製品開発に加え、ライフサイクルを考慮した製品開発の重要性を認識し、2001年から環境適合製品開発をスタートさせました。環境適合設計の評価項目は、①減量化、②長期使用性、③再生資源化、④分解性、⑤処理容易性、⑥環境保全性、⑦省エネルギー性、⑧情報提供です。また、そのような製品を実現するために、資材調達での「グリーン調達」、プリント基板の「鉛フリー化」技術調査及び営業での顧客からの「引き取り製品のリサイクル」活動を製品設計と連携して行っています。

Gaiareport（環境報告書）

Q 厳しい「分別チェック」があるとか？

A 生産ラインから出たごみは、適切に分別されているか、分別を間違っていたり、リサイクリングの妨げになるものが混入したりしていないか、環境管理室と総務部から数名が毎日細かくチェックしに出かけます。オフィスから出るごみは、部署ごとに分別・収集後、ごみ袋に部署名を記入して、所定時間（朝の業者回収時）にその部署の担当者が持ち込むことになっています。

そのときにリサイクル可能なものがないことを確認し、もし混入が多い場合はその場で分別し直します。その結果は各部署にフィードバックします。この繰り返しが意識向上につながっているようです。また、全社をあげた取組みとしては、普遍的に「啓発テーマ」を設け、ごみ分別を含めた環境活動に全員の参加を求め、意識向上を図っています。

Q ゼロエミッションまで後一歩だとか？

A 来年度の目標は、ゼロエミッションの実現。社内分別、リサイクリングルートの確保、委託したリサイクリングの実施確認により、現在、最終処分量を約10％にまで減らすことができました。これを、1％にまでしたいと考えています。どうしても最終処分せざるを得ないものを除いて、分別・リサイクリングを徹底することにより実現できるものと思います。

Q 大きな前進！さらなる展開は？

A 当社は1997年にISO14001の認証を取得し、様々な啓発活動を通して環境マナーを全社に徹底させ、オゾン層破壊物質や塩素系有機溶剤の使用全廃、廃棄物のリサイクリング向上、電気、ガス、水、紙等の使用量削減に積極的に取組んできました。しかしながら、少量多種の製品を製造する関係上、製品のライフサイクルといった総環境負荷への展開が簡単には進みませんでした。環境全体を視点とした取組みは、まさに本格稼働したところです。

株式会社　堀場製作所

本社所在地：〒601-8510　京都市南区吉祥院宮の東町2
TEL：075-313-8121　FAX：075-321-6621
URT Home Page：http://www.horiba.co.jp
創業：1945年（昭和20年）
設立：1953年（昭和28年）
資本金：65億7700万円（2002年3月20日現在）
売上高：744億円（2002年3月期連結）
営業品目：科学計測機器、エンジン計測機器、環境用計測器、半導体用計測機器、医用計測機器の製造販売。分析・計測に関する周辺機器の製造販売。分析・計測に関する工事、その他の建設工事ならびにこれらに関する装置・機器の製造販売。
従業員：951名（単体）／3,583名（グループ）（2002年3月20日現在）

新シリーズ

「やってます。わたしの住む町で、ごみ減らし」

大将軍地域女性会ごみ減量推進会議

月１回の回収や常設の拠点とを複合させ、回収の輪を拡大

使用済み天ぷら油回収が広がるなか、女性会のメンバーが「やってみよう」と、試験的に回収実施。公園にドラム缶を置いた。回覧板での告知が効を奏したのか、次々と油が持ち込まれた。その後、女性会以外のメンバーも加わり「大将軍地域女性会ごみ減量推進会議」が発足。以来、毎月１回、府立体育館北の一条町児童公園の一角で油を回収している。当番制で２名が立ち会う。

また、鷹司児童館ではポリタンク２個を常設。森定会長宅にはポリタンク３個を管理、時間の都合の付かない人に便宜を図っている。

回収量は、おおよそ40～130リットル。「油の回収を始め、使い捨てのない暮らし、ごみ減らしへの意識が高くなった」と森定会長は見る。しかし、まだまだPR不足。「多くの人に知ってもらいたい」との思いが強い。

母体の女性会では、金閣寺にほど近く、観光客のポイ捨てが多いため、以前から春秋年2回のまちの清掃を行うなどしている。

◆会長：森定喜美　◆会員：30名　◆発足：平成11年2月
◆使用済み天ぷら油の回収：
北区一条町公園　毎月第2土曜日午前10～11時（使用済み乾電池の回収も合わせて実施。回収ボックスは大将軍小学校内に設置）
鷹司児童館：開館時間内に回収。午前9時～午後5時（日祝休）
◆森定会長宅：申し出のあったときのみ

鷹峯廃食用油リサイクル推進委員会

女性会と町内会との二人三脚、3年目で軌道に乗る

そもそも社会福祉協議会で進めていた使用済み天ぷら油の回収。環境への取り組みをきっかけに女性会で引き継ぐことに。鷹峯学区17の町内会と手を組み、天ぷら油の回収を実施。地元のつながりが深く、なにかと協力し合ってきた長年の実績が、油の回収にも活かされた。

拠点は２軒のお宅で、当番は女性会と町内会から各１名でと、回収の体制づくりも円滑だった。今では回収時には、１拠点でポリタンク２個がいっぱいになる。最近は近隣学区からも問い合わせがあり、実際に持ち込まれるケースも増えてきた。

「女性会と町内会との二人三脚で進めたことが、良かった。地域全体からの回収ができる」と渡辺会長。しかし、まだまだ呼びかけが不十分であり、いかに情報を流すかが今後の課題だ。

地域全体では、京見峠など広域の清掃や、まちの美化や環境への取り組みが行われ、会員らもともに清掃にあたる。

◆会長：渡辺昌子　◆会員：103名　◆発足：平成11年11月
◆使用済み天ぷら油回収拠点：
楳田さん宅前（源光庵バス停南100m）嶌本さん宅前（上ノ町バス停下ル）
◆毎月15日午前10時～12時30分

写真左より辻井さん、渡辺さん、徳田さん

京都市ごみ減量推進会議会報誌　ごみを減らそう！No.20

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局　2002年（平成14年）10月発行
〒604-8571　京都市中京区寺町御池
京都市環境局環境企画部循環型社会推進課内
TEL. 075-257-5053　FAX. 075-213-0453
E-mail　gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL　http//web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html
企画編集：京都市ごみ減量推進会議広報活動実行委員会
委員長／寺島晃　副委員長／宮本時江
実行委員／浅利美鈴・大場貫三・大橋正明・芝田直樹・田中真砂世・中島和子・西田敏光・前田純一・森田知都子・山本忠史

【入会のご案内】詳細は、事務局へお問い合せください。

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により平成8年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会　費】

市民（市民団体・消費者団体・環境団体等） 専門家（学識経験者等） 地域ごみ減量推進会議	1口1千円 （年間1口以上）
大学・マスメディア・事業者団体 企業等・行政	1口1千円 （年間2口以上）

古紙100%の再生紙（白色度70）に大豆油インクで風力発電による自然エネルギーを用いて印刷しています。